

## 平成28年度 第4回がまごおり協働まちづくり会議要旨

日 時 平成29年1月26日(木)  
午後1時00分～午後3時00分  
場 所 蒲郡市役所新館6階601会議室

### 1 開会

- 和泉会長挨拶
- 事務局より報告
  - ・ 酒井伸委員へ委嘱状の授与
  - ・ 前回の第3回がまごおり協働まちづくり会議要旨を振り返る
- 結論
  - ・ 会議要旨の承認＝会議要旨の公開

### 2 議題

#### (1) 賀詞交歓会について

- 事務局より報告
  - <内容>
    - ・ 助成金の中間報告会として6団体より中間報告
    - ・ 一宮市で活躍されている「NPO法人志民連いちのみや」の星野氏による講演会を実施
      - 助成金を継続申請している団体に、新しい気付きをしてもらう意図
    - ・ 歓談と名刺交換の実施
  - <成果や反省>
    - ・ 1月の実施のため、すでに事業終了された助成団体が最終報告会のようになってしまった
    - ・ 助成申請に至らなかった団体が参加されて、他の団体との交流が芽生えていた
    - ・ 障害者差別解消法に伴い音声認識アプリの「UDトーク」を試供
      - 誤変換対応でスタッフ3人が作業に割かれてしまった
- 委員感想等
  - ・ 参加団体等の説明が口頭のみだったが、資料があると良かった
  - ・ 主目的が講演だけにならないような考えが必要
  - ・ 若い方との接点を持ちたかった
  - ・ 参加者へのアンケートをすることでPDCAをすることができる
  - ・ 参加団体の活動紹介があると良かった
  - ・ 交流の場であったがその演出があっても良かったのでは
- まとめ
  - ・ 分野またぎの交流をしてもらうことが狙いで始まった
    - 経済界の方たちの視点も交えることで刺激になってもらうことが重要
  - ・ 盛りたくさんの内容だったため、もう少し精査が必要

(2) まちづくり助成金の募集について

- 事務局より報告
  - ・助成金の募集について報告（応募期間、審査日、審査会場など）
  - ・助成金の申請や相談状況について報告
    - 制度説明会では2団体が説明を受けに来られた
    - 12事業の相談を受けている
    - 紹介されて相談に来た新しいケースが発生している
- 委員質問等
  - ・相談時の「相談レポート」があると、まちづくり委員が共有できて良い
- まとめ
  - ・金銭面は事務局で確認、最終的には審査会にて審議していくため、できるだけ多くの団体を審査へつなげてもらう

(3) まちづくり賞について

- 事務局より説明
  - ・まちづくり賞について推薦対象団体があれば、まちづくり委員からも推薦書のご提出をしていただきたい
- 委員質問等
  - ・過去にはどのような団体があったか？
    - 「子どもの安全を守る会」「障がい者支援グループいきいきビーンズ」「蒲郡商店街振興組合」「あんくる'S Bell」「この指とまれの会」「がまごおり花フル会」「食育サポートセンタークックラボとおやつサポーターの皆さん」「とうふねこ座」
- 結論及びまとめ
  - ・次回のまちづくり会議時に各委員から推薦対象団体があれば提出していただく
  - ・まだまだスポットライトが当たっていない団体活動にスポットを当ててもらいたい団体を推薦していただきたい
  - ・まちづくり会議にて選考をする

(4) まちづくり委員の募集について

- 事務局より説明
  - ・現まちづくり委員の任期が4月で到来するため、新まちづくり委員の募集を開始します
- 委員質問等
  - ・周知手段は何で実施するか？
    - 「広報がまごおり」及び「ホームページ」にて周知
- 結論
  - ・公募し新まちづくり委員を決めていく

(5) 次年度の協働モデル事業について

○ 事務局より説明

- ・提出されたモデル事業案を再度説明し、優先順位を決めていただく
- ・優先順位の上位について行政の担当部署との確認・調整を行っていく

○ 委員質問等

- ・市民提案ならでは！というテーマでモデル事業を検討してもらいたい
- ・「地域の防災活動」ではすでに何年も助成金を得て活動している団体があるが、さらにその団体と一緒に実施していくのか？  
→助成団体の活動内容は予防活動だけであり、今回のモデル事業の内容とは異なり、どの団体もほとんど実施したことがない地域の共助期間という部分となる
- ・「地域の防災活動」の主体者は誰になるのか？  
→地域の共助期間のモデル事業であるため、地域（総代や常会等）を主体とする
- ・地域コミュニティが「地域の防災活動」を考えてもらうモデル事業化
- ・行政主導でないと波及効果が薄いのではないのか？  
→活発な地域の活動を広く周知することで波及効果が見込めるのでは  
→行政側もしっかりサポートが必要となる
- ・「地域の防犯活動」は事件もあったことから郊外にとって非常に重要
- ・「就労支援」は行政だけでも抱えきれない大きな社会課題である
- ・「地域の防災活動」のモデル事業の目標がマニュアル作りだけでは、誰も読まなくなってしまうので、実施される活動为目标にすべきである
- ・防災活動は訓練のための訓練になっているので、モデル事業化することでもう少し本気になれば良い
- ・「地域の防災活動」はどこの地域も避けては通れないことからモデル事業に適しているが、最初の目標設定が重要

○ 結論

- ・「①地域の防災活動」「②地域の防犯活動」という優先順位とし、コラボも含めて確認・調整をしていく

3 その他

- 次回開催日 平成29年3月17日 午後2時～午後4時

欠席者 小林浩委員、鈴木委員、酒井雅委員

数11人中出席委員8人（会議成立）